

「省察」の質的な深まりに着目した教員養成課程の 模擬授業に関する研究 (I)

－保健体育科教育の授業を対象として－

柳瀬慶子, 大矢隆二*, 木宮敬信, 黒岩一雄, 村本宗太郎

A Study on Simulated Class in the Teacher Training Course
Focusing on the Qualitative Deepening of "Reflection" (I)
: Targeted for Health and Physical Education Classes

YANASE Keiko, OYA Ryuji*, KIMIYA Takanobu,
KUROIWA Kazuo, MURAMOTO Sotaro

2020年10月19日受理

抄 録

本研究は、保健体育科教育の授業で行った模擬授業において、【課題①】学生の省察の質を明らかにし、【課題②】さらに深い省察に導くために保健体育科教育の授業における学びの必要性について検討することを目的とした。模擬授業における学生の学びの記述を、マックス・ヴァン・マーネンの「省察の3次元モデル」に照らしてテキストマイニングで質的分析を行った。その結果、多くの省察が「技能的省察」に留まっており、どう能率的・効率的に授業を進行するかということに意識が集中していた。一方「実践的省察」も見られ、教師が学習内容の理解を深め、生徒と学習内容、生徒と教師の関係を取り結んで授業を実践する必要性についての気づきが見られた。ごくわずかに「批判的省察」も見られ、学生自身が持つ既存の発達観の問い直しも見られた。今後の保健体育科教育の授業の学びとしては、学びを創り出す力や見極める力の育成が必要であることが浮かび上がった。

キーワード：保健体育科、模擬授業、省察、学び、テキストマイニング

I. 緒言

文部科学省は、2017年に「教職課程コアカリキュラム」を提示した。これには、

* 國學院大學人間開発学部健康体育学科

大学の教職課程において「学芸と実践性の両面を兼ね備えていることが必要とされ、教員養成は常にこの二つの側面を融合することで高い水準の教員を養成することが求められてきた」（文部科学省，2017）ものの，初任者等の実践的指導力や学校現場の課題への対応力の不足により，教職課程のあり方・内容・方法についての検討がなされてきたという背景がある。「教職課程コアカリキュラム」の内容を見ると，各教科の指導法における「当該教科の指導方法と授業設計」の5つの到達目標の内，「模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている」という到達目標が掲げられている。大学の教職課程の各教育法等の授業において多くの模擬授業が行われ，保健体育科・体育科の教職課程においても実践的指導力向上のために模擬授業の学びや効果に関する数多くの先行研究が発表されている（木原ら，2007・2008・2009；藤田ら，2008）。模擬授業における学びとしては，教授技術，授業を省察する力，授業の実施に必要な知識や能力という大きく3つの事項の育成に効果があることが報告されている（木原，2010；藤田，2015；田井ら，2018）。

その中でも，前述のコアカリキュラムの「授業改善の視点」に関連して，「省察」というキーワードが多くあげられている。秋田（1996）は，省察概念について，ジョン・デューイの著書『How we think』（Dewey, 1933）や，ドナルド・ショーンの著作「The theory of inquiry :Dewey's legacy to education」（Shon, 1992）より，それぞれの論をまとめている。ジョン・デューイは，「省察とは，思考の一つの形態」であり，それは「実践状況に直接関わる経験の中で生じるためらいや困惑，疑念から成長した思考形態であり，このためらいや困惑を解決するための『探究』がなされ，ある判断，問題解決と実行で終わる思考」と述べている。ドナルド・ショーンは，行為と思考のあり方として，「行為における省察」（reflection-in-action）と「行為についての省察（行為後の省察）」（reflection-on-action）があると述べている。「行為における省察」とは，「状況と対話しながら瞬時的に思考し行動すること」である。「行為についての省察」とは，「活動の中で瞬時的に形成した理解の意味を問うことによって，新たな発見が導かれる」とし，また「自分のその時の経験を，それまでの経験によって培ったフレーム（枠組み）に照らして意味づけることから，フレームの再構成が行われていく」としている。

教職課程の模擬授業における「省察」に関する先行研究としては，次のものがあげられる。日野ら（2009）は，省察に至るための「問題の発見」に焦点を当てて，大学の模擬授業や中学校の教育実習における省察の実態を明らかにした。藤田ら（2011）は，体育科模擬授業において教師役を経験する意義を，模擬授業を省察するという視点から量的に検討した。岸（2013）は，小学校教員養成課程における体育科教育法の模擬授業で受講生の「授業省察力」の変容に着目した。上條（2016）は，小学校教員養成課程における体育科模擬授業を通して，必要な知識や能力をどのように省察し，それがどう変化しているのかを捉えようとした。田井ら（前掲）は，リフレクションシートの量的分析から保健体育科の模擬授業で見られる省察の内容分類を行った。これらの結果から，省察の内容として，「教師行動」「教材・教具・学習課題」「授業展開」「学

習環境（安全配慮等）」等があげられている。また、省察の変容として、模擬授業や教育実習を通して省察能力は段階的に向上することが示されており、実践と振り返りを繰り返して行うことが大切であると述べられている。また、「教師行動」から「教材・教具・学習課題」への視点転換や批判的評価の視点が持てるようになったことが報告されている。

以上の先行研究では、教員養成課程における模擬授業の省察の内容やその変容は語られているが、省察の質自体を問うた研究は見られない。秋田(前掲)は、マックス・ヴァン・マーネンの著作「Linking ways of knowing with ways of being practical」(Van Manen, 1977)と「Reflectivity and the pedagogical moment:The normativity of pedagogical thinking and acting」(Van Manen, 1991)から、省察の捉え方として、3つの次元があることを紹介している。1つ目は「技能的省察」であり、ある目標達成の手段としての効率や有効性を検証するレベルの省察である。「なぜこの学習か」「なぜこの教材か」という「なぜ」は問わないが、「いかにできたか」を問う、外的な客観的基準に基づいた省察である。2つ目は「実践的省察」であり、手段だけではなく目的も検証する。主観的で内的な意味が省察され、個人の文脈が重視される。3つ目は「批判的省察」であり、モラルと倫理的基準を含めた省察である。自分のおかれている文脈やすでに当然とされている実践に対する社会的な制約やそのイデオロギーに気づく省察であり、以前確認していた性質に新たな意味付与を行うレベルの省察である。また、二宮ら(2018)は、マックス・ヴァン・マーネンの論に基づいて、教師の省察の深まりとは「単なる目的達成の手段のふりかえりにとどまることなく、目的そのもの、あるいは自明視されている前提や自らの価値観を対象にしたふりかえりに至ることを意味する」と述べている。

そこで本研究は、2019年度T大学「保健体育科教育Ⅱ」の授業で行った模擬授業における学生の学びの記述を、【課題①】マックス・ヴァン・マーネンの「省察の3次元モデル」に照らしてテキストマイニングを用いて質的分析を行い、学生の省察の質を明らかにするとともに、【課題②】さらに深い省察に導くために保健体育科教育の授業においてどのような学びの必要性があるかについて検討することを目的とする。

Ⅱ. 分析方法

1. 分析対象となるデータ

本研究では、保健分野の模擬授業後の学びとして収集した学生の自由記述文をデータとして使用した。自由記述文は、模擬授業後にGoogleフォームへの回答を求め収集した。

対象は静岡県T大学において、中学校・高等学校（保健体育）教員免許の取得を目指して教職課程の「保健体育科教育Ⅱ」を履修している学生（3年次）とした。内訳は、1名の未提出者を除く、男子19名、女子13名、計32名である。

2. 調査方法

日時：2020年1月7日（火）10：30

場所：静岡県T大学

調査対象者：静岡県T大学「保健体育科教育Ⅱ」履修学生32名

調査内容：「模擬授業（保健分野）において、あなたが学んだことと今後の課題であると感じたことを、150字程度で具体的に入力してください」

3. 分析方法

収集した自由記述文を基に、Text Mining Studio6.3（株式会社NTT データ数理システム社製：以下、Text Mining Studio）を用いて分析を実施した。Text Mining Studioは、蓄積されたテキスト（文章）を分析、活用など多くの質的データを処理するために開発されたものである。本研究では、単語頻度解析¹及びことばネットワーク²により分析を試みた。

また、頻度・出現回数の設定は、第一著者（体育科教育学，舞踊教育）及び第二著者（保健体育科教育学）で妥当性について2回にわたり検討し、単語頻度解析では頻度5以上を、ことばネットワークでは出現回数3以上を分析対象とした。

4. 倫理的配慮

調査対象者に対して、研究概要を書面と口頭で説明し、被験者同意を文書にて得た。その際、研究対象データは今後の保健体育科の模擬授業における教育のあり方を研究する目的のみに使用すること、個人を特定するものは一切公開しないこと、調査対象のレポート記述は授業評価とは無関係であること、同意後被験者に不都合が生じた場合はいつでも撤回できることを説明した。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 結果

模擬授業後に、学生が回答した模擬授業の省察に関する自由記述の中で、本研究は名詞・形容詞・形容動詞に着目して単語頻度解析を行った。名詞・形容詞・形容動詞に着目した理由としては、『広辞苑』（新村，2018）によると、名詞は「人や物を表す語」、形容詞は「事物の性質・状態・心情等を表現する語」、形容動詞は「事物の性質・状態を表現する語」であるため、学生の模擬授業における学びの状況が把握しやすく、省察の質を読み取りやすいと考えたためである。自由記述における頻度5以上の名詞・形容詞・形容動詞の結果を図1に示した。計13語が抽出され、中でも「模擬授業」が最も頻度が高く頻度18であった。次いで「生徒」が頻度15、3番目に「自分」と「良い」が頻度12であった。

¹ 単語頻度解析は、データの中でいったことばがどの程度出現するかを把握することによって、そもそも何についてのデータであるかということを理解し、またこれからの分析の方向性を考えていくことができる分析である（出典：Text Mining Studio スキルアップセミナー・株式会社NTT データ数理システム）。

² ことばネットワークは、ことばとことばの関係をネットワーク図で表現することにより、話題の塊を抽出することができる分析である（参考：Text Mining Studio スキルアップセミナー・株式会社NTT データ数理システム）。

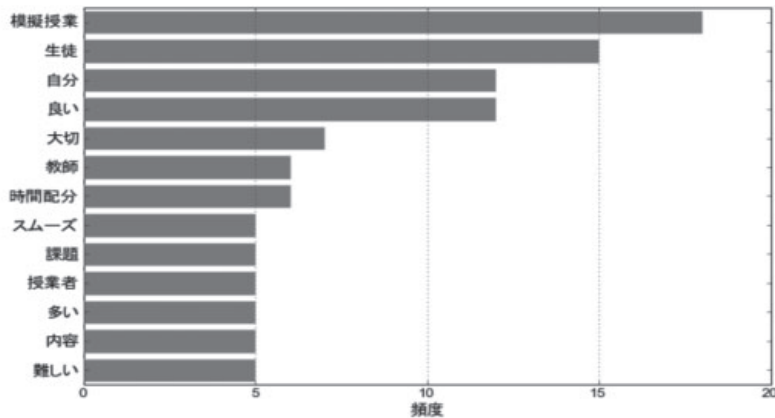


図1 単語頻度解析結果 (名詞・形容詞・形容動詞)

図1の名詞・形容詞・形容動詞の中で、本研究は頻度12以上の「模擬授業」「生徒」「自分」「良い」の4語に着目し、ことばネットワーク分析を用いて分析を行った(図2)。ことばネットワーク分析の中で、矢印でつながっている言葉は同時に出現(共起)することを意味しており、共起関係であると見ることができる。本論文では、単語頻度が高い4語と共起関係にある語に着目し、図2で直接つながっている語のみを取り上げ考察を行った。その際、図2の共起関係を示す矢印の向きについては言及しないこととした。また、より詳細に考察するために、それぞれの語と共起関係にある語が出現する原文データも分析資料として参照した(巻末資料①～④)。中には、原文データを参照しても学生の省察内容が詳細に記述されていないものがあり、省察の質を考察できないため、巻末資料には「-」の印を用いて考察データから省くこととした。

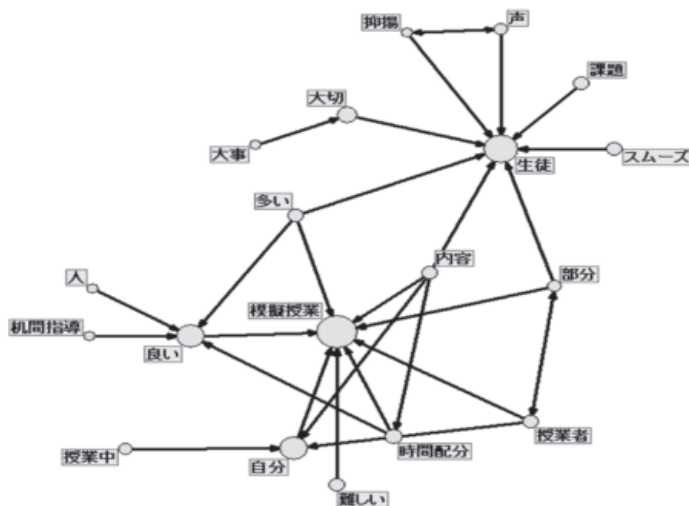


図2 ことばネットワーク分析結果 (名詞・形容詞・形容動詞)

1.1. 「模擬授業」の共起関係

まず単語頻度が最も高い「模擬授業」と共起関係がある語を見ると、「自分」「良い」「時間配分」「授業者」「内容」「部分」「多い」の7語があげられた。

「模擬授業－自分」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の7か所を除く8か所で省察の質が読み取れた。「技能的省察」が5か所、「実践的省察」が3か所読み取れた。原文データ例を表1に示す。「技術的省察」では、話し方や字の書き方、プレゼンテーション力や机間指導等の授業方法としての課題があげられた。「実践的省察」では、授業者である自身の授業に対する取り組み意欲の必要性という実践を通じた教師としての根本的な課題についての記述が見られた。また、自身（授業者）の考えた学習内容に沿って授業を計画通りに進める難しさを感じ、授業は教師と生徒との対話の中で成り立つことを感じた記述が見られた。

表1 「模擬授業－自分」共起関係の原文例

共起関係 原文 No.	原文（自分）の一部抜粋	省察の質
2	準備の時点で 自分 の授業作りに対する熱量が必要。	実践的省察
7	自分 の話し方や字の書き方など、自分では気づかないような指摘を受けれたので良かった。	技能的省察
10	自分 のプレゼン力の低さを改めて感じた。	技能的省察
11	生徒との交流であったり、 自分 が考えている内容に近づけていくのは難しいと思いました。	実践的省察
14	自分 が欲しい意見が出てこない場面があり困ったが、机間指導をしているときに良い意見を見つけておくことが大切だということを学んだ。	技能的省察

「模擬授業－良い」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の2か所を除く9か所で省察の質が読み取れた。模擬授業の雰囲気や時間を良くすることや、時間配分を考えた方が良いということ、学びが滞った場合の支援の仕方、授業の導入方法、授業者としての話し方や字の書き方、自分（授業者）が欲しい意見が出ない場合を想定して机間指導の時に生徒の良い意見を見つけておく方が良いといった記述等があり、すべてにおいて模擬授業をスムーズに進めるための「技能的省察」に留まっていた。

「模擬授業－時間配分」の共起関係では、全6か所で省察の質が読み取れた。模擬授業が予定より早く終わらないようにする等の時間配分についての課題があがっており、「模擬授業－良い」の共起関係同様、すべてにおいていかに模擬授業を予定通り進めるかという「技能的省察」に留まっていた。

「模擬授業－授業者」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の1か所を除く3か所で省察の質が読み取れた。「実践的省察」が2か所、「批判的省察」が1か所読み取れた。原文データ例を表2に示す。「実践的省察」としては、他者の模擬授業から、生徒の実態と学習内容とのずれがないかどうかを省察する記述が見られた。また、教

師の一斉型授業ではなく、生徒と対話をしながら主体的に取り組める授業を目指す記述が見られた。「批判的省察」としては、一般的な発達や学習レベルに基づいて授業者役の学生が高校生の学びのレベルを予想して模擬授業を構想したことに対しての疑問が呈されており、高校生であればここまで出来るという一般的な発達観を鵜呑みにした学生自身（授業者）の生徒観の問い直しがなされていた。

表2 「模擬授業－授業者」共起関係の原文例

共起関係 原文 No.	原文（授業者）の一部抜粋	省察の質
5	実際に模擬授業を行ってみて、また他の授業者の模擬授業を受けてみて、授業を行うための事前準備の重要性について改めて学んだ。授業に一連の流れがあるのか、またその内容は対象に あっているのかなど、構成を熟考する必要があると感じた。	実践的省察
13	教員が一方的に喋る授業にならないための環境づくりや、生徒が主体的・対話的に学習に取り組んでくれるような導入で、どの授業者も工夫がみられたので参考にしたい。	実践的省察
17	今回の模擬授業の対象者が高校生であったのでこれくらいは出来て当然だと言う授業者(私自身)の価値観を押し付けてしまった部分があった。	批判的省察

「模擬授業－内容」の共起関係では、全4か所で省察の質が読み取れた。すべて「実践的省察」であった。原文データ例を表3に示す。ここでは、学習内容をしっかりと教師が捉えると共に、表2「模擬授業－授業者」の共起関係原文 No.5と同部分も見出され、授業者が計画通り授業を進めるのではなく、学習内容と生徒との関係性に着目して生徒の理解度等を把握した上で学びを深めていくことについての記述が見られた。

表3 「模擬授業－内容」共起関係の原文例

共起関係 原文 No.	原文（内容）の一部抜粋	省察の質
4	実際は50分の授業なので内容が薄くならないように計画をしていかななくてはいけない。	実践的省察
17	生徒の実態をよく考えてから授業スタイルを確立することを学んだ。同じ授業内容でも生徒観を確り捉え、それらを基に考えた授業プランと何も考えず、ただ内容を吟味しただけの授業では深い学びの度合いが違うと感じた。	実践的省察

「模擬授業－部分」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。「技能的省察」が2か所、「批判的省察」が1か所見られた。「技能的省察」としては、大事な部分を板書することや授業者が求めている答えが出なかったときの引き出し方といったものがあげられた。「批判的省察」としては、表2「模擬授業－授業者」の共起関係原文 No.17と同部分が見出され、一般的な発達観を鵜呑みにした学生自身（授業者）の生

徒観の問い直しがなされていた。

「模擬授業－多い」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の1か所を除く2か所で省察の質が読み取れた。板書が多くなることを予想して穴埋め用のプリントを作成する等、2か所とも授業全体をスムーズにまとめることに着目した「技能的省察」に留まっていた。

1.2. 「生徒」の共起関係

次に単語頻度が高い「生徒」と共起関係がある語を見ると、「大切」「声」「課題」「抑揚」「スムーズ」「部分」「内容」「多い」の8語があげられた。

「生徒－大切」の共起関係では、全6か所で省察の質が読み取れた。授業の雰囲気づくり、声の抑揚、板書、発言の少ない生徒への対応の仕方、指導案の事前検討が大切であるという「技能的省察」にすべて留まっていた。

「生徒－声」の共起関係では、全4か所で省察の質が読み取れた。声のトーンや抑揚、大きさ、大切などところの強調という「技術的省察」にすべて留まっていた。

「生徒－課題」の共起関係では、全4か所で省察の質が読み取れた。「技能的省察」が3か所、「実践的省察」が1か所読み取れた。原文データ例を表4に示す。「技能的省察」では、積極的な生徒がいない時の授業者の振る舞いや、時間配分や板書の仕方、限られた時間の中で取り扱う内容の吟味等が課題としてあげられた。「実践的省察」では、生徒の学びの状況をよく把握しながら展開し、一方的に教師が進めるのではなく生徒に考えさせる時間を設けた方がよいという課題があげられた。

表4 「生徒－課題」の共起関係の原文例

共起関係 原文 No.	原文（課題）の一部抜粋	省察の質
4	プレゼンにならないようにすること、指示を明確にする事や生徒をよく見ながら展開していくことなどを意識して取り組む事ができたと感じた。生徒に考えさせる時間をもう少し設けさせたほうが良かったという課題を残った。	実践的省察
9	授業を時間内でしっかりとまとめられるように時間配分、時間の管理をできるようにすること。より生徒が見やすく、大切なことがわかるような板書の仕方を身につけていくこと。などが課題だと思う。	技能的省察
13	今後の課題としては授業で取り扱うネタの選別だと考える。全てが授業中に話せる訳では無いからだ。	技能的省察

「生徒－抑揚」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。「生徒－声」の共起関係と同様に、重要なところは抑揚をつけて聞き取りやすくする等の「技術的省察」にすべて留まっていた。

「生徒－スムーズ」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。実際の授業でスムーズに授業が進まない時の教師の振る舞いや、プレゼン（説明）のレベルを向上したりグループワークの中に授業者が入って生徒の意見を事前に把握して発表を

促したりする等の「技術的省察」にすべて留まっていた。

「生徒一部分」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。「技能的省察」が2か所、「批判的省察」が1か所読み取れた。「技術的省察」では、大事な部分を板書するや、授業者が想定した答えが出なかった時にどう生徒から引き出すかがあげられた。「批判的省察」では、表2「模擬授業－授業者」の共起関係原文 No.17 と同部分が見出され、一般的な発達観から学生自身（授業者）が生徒の学びのレベルを判断している部分があることに気づき、実際の生徒の状況を把握することが重要であるという生徒観の問い直しがなされていた。

「生徒－内容」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。「技術的省察」が1か所、「実践的省察」が2か所読み取れた。「技能的省察」では、学習内容に直結する発問の仕方があげられた。「実践的省察」では、表1「模擬授業－自分」の共起関係 No.11 と同部分が見出され、自身（授業者）の考えた学習内容に沿って授業を計画通りに進める難しさを感じ、授業は教師と生徒との対話の中で成り立つことを感じた記述が見られた。また、表3「模擬授業－内容」の共起関係原文 No.17 との同部分も見出され、授業者は生徒の実態を把握した上で授業を創っていくことの必要性に気づいた省察があげられた。

「生徒－多い」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。授業者が考えた通りに授業は進まないため臨機応変な対応が必要であることや、グループワークに授業者が入って生徒の意見を把握しておいて発表につなげることや、板書が多くなることを予想したプリント作成が必要という省察があげられ、すべて「技能的省察」に留まっていた。

1.3. 「良い」の共起関係

「良い」と共起関係のある語を見ると、「模擬授業」「時間配分」「机間指導」「人」「多い」の5語があげられた。

「良い－模擬授業」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の2か所を除く7か所で省察の質が読み取れた。原文データ例を表5に示す。授業の雰囲気が良いと生徒の意欲につながるために雰囲気づくりは大切であることや、良い授業は良い導入から始まるという気づき、時間配分の難しさ、授業前準備の大切さ、他の授業者の参考になる指導法の発見等、すべて「技能的省察」に留まっていた。

表5「良い－模擬授業」共起関係の原文例

共起関係 原文 No.	原文（模擬授業）の一部抜粋	省察の質
2	この 模擬授業 で1番大切だと感じた事は授業の雰囲気作りだなと思いました。どの授業でもそうですが授業の雰囲気が良いと生徒の意欲にもつながると思うので雰囲気作りは本当に大切にしていきたいです。	技能的省察
6	私が今回 模擬授業 を行う際に特に力を入れた点は、導入です。やはり、良い授業は良い導入から始まると思っています。	技能的省察

11	<p>模擬授業の中で〇〇くん（原文は受講生の名字）の授業が一番参考にしたいと感じました。生徒の発信に対して否定をせず、答えと少しずれた事を言ってもヒントを足して生徒に答えさせる、理解を深めるのにとっても良い指導方法だと思いました。</p>	技能的省察
----	---	-------

「良い－時間配分」の共起関係では、全5か所で省察の質が読み取れた。模擬授業が早く終わってしまったために時間配分に留意することや、時間配分の難しさ等、すべて「技術的省察」に留まっていた。

「良い－机間指導」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。机間指導で良い意見を見つけておいて発表につなげることや、板書が多く机間指導が疎かになったという省察があげられ、すべて「技術的省察」に留まっていた。

「良い－人」の共起関係は3か所あったが、省察の詳細が読み取り不可のため、3か所すべてで省察の質が読み取れなかった。

「良い－多く」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の1か所を除く2か所で省察の質が読み取れた。以前受講した授業よりもうまく授業がまとまっているものが多いことや、板書が多くなったという課題があげられ、模擬授業をいかにスムーズに進めるかという「技能的省察」にすべて留まっていた。

1.4. 「自分」の共起関係

「自分」と共起関係のある語を見ると、「模擬授業」「授業中」「内容」の3語があげられた。

「自分－模擬授業」の共起関係では、省察の詳細が読み取り不可の3か所を除く12か所で省察の質が読み取れた。「技能的省察」が5か所、「実践的省察」が6か所、「批判的省察」が1か所見られた。原文データ例を表6に示す。「技能的省察」としては、事前準備の重要性に対する気づき、自身（授業者）のプレゼン（説明）力のなさへの気づきがあげられた。また、時間配分や板書、声の大きさや話すときの態度、目線についての難しさもあげられた。「実践的省察」としては、表1「模擬授業－自分」の共起関係原文No.2にも見られた授業に対する授業者の取り組み意欲についての気づきや、表1「模擬授業－自分」の共起関係原文No.11や「生徒－内容」の共起関係にも見られた自身（授業者）の考えた学習内容に沿って授業を計画通りに進めることは難しいという気づきがあげられた。また、表2「模擬授業－授業者」の共起関係原文No.13にも見られた教師が一方的に喋る一斉授業ではなく生徒が他者と対話をして主体的に学ぶ授業への転換の必要性や、表3「模擬授業－内容」の共起関係原文No.17や「生徒－内容」の共起関係にも見られた学習内容と生徒との関係性に着目してしっかり生徒の理解度等を把握した上で学びを深めていく必要性、目の前の生徒の実態や発達に合った学習指導の必要性、授業者の想定外の反応にも対応していく力の育成についての気づきがあげられた。「批判的省察」としては、表2「模擬授業－授業者」の共起関係原文No.17にも見られた、一般的な発達レベルに基づいて学びのレベルを判断していたが実際の生徒は一般的な発達に必ずしも当てはまらない場合が

あることや、自身（授業者）の想定外の生徒の意見にも対応して教師と生徒との関係の中で学びを創っていくことの必要性についてあげられた。

表 6 「自分－模擬授業」共起関係の原文例

共起関係 原文 No.	原文（模擬授業）の一部抜粋	省察の質
1	模擬授業ではいつもの授業と異なるため何倍も勉強になった。まず準備の時点で自分の授業作りに対する熱量が必要であり、そこで力を抜いてしまうと授業で困るのは自分だということをやったし、生徒役をしていても思った。パワーポイントも使用したり授業の幅をもたすのは全て自分次第だなと感じた。	実践的省察
8	板書や時間配分が反省点であがりやすかった。授業中のことを考えることも大事であるが、授業前の準備もかなり大事だということを経験して感じた。	技能的省察
10	今回の模擬授業の対象が高校生であったのでこれくらいは出来て当然だと言う授業者（私自身）の価値観を押し付けてしまった部分があった。いくら発達段階が高い高校生でも分からないものは分からないのである。そこは自分の設定した指導案にはない、ある意味予想外の反応であるが、それにも柔軟に対応して行けるようなスキルを涵養して行かなければ現場では通用しないと痛感した。	批判的省察
10	そこは自分の設定した指導案にはない、ある意味予想外の反応であるが、それにも柔軟に対応して行けるようなスキルを涵養して行かなければ現場では通用しないと痛感した。よって模擬授業の経験を重ねて、臨機応変な対応力を身につけたいと思う。	実践的省察

「自分－授業中」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。授業者としての話し方や字の書き方、時間配分やそれに関連して授業で取り扱う内容の選別、事前準備の重要性についてあげられ、すべて「技能的省察」に留まっていた。

「自分－内容」の共起関係では、全3か所で省察の質が読み取れた。表2「模擬授業－授業者」の共起関係 No.5 や「模擬授業－内容」の共起関係でも見られた生徒の実態と学習内容との間にずれが生じていないかを確認する必要性や、表1「模擬授業－自分」の共起関係 No.11 や「生徒－内容」「模擬授業－自分」の共起関係でも見られた自身（授業者）の考えた学習内容に沿って授業を計画通りに進めることは難しいという気づき、表3「模擬授業－内容」の共起関係 No.17 や「生徒－内容」「模擬授業－自分」の共起関係にも見られた学習内容と生徒との関係性に着目してしっかり生徒の理解度等を把握した上で学びを深めていく必要性についてあげられた。「自分－内容」の共起関係は、3か所すべて「実践的省察」であった。

2. 考察

模擬授業後の学生の学びを見ると、「技能的省察」が一番多く見られ、次いで「実

実践的省察」, 「批判的省察」の順という結果が得られた。

「技能的省察」については、話し方や声、板書や字の書き方等の基礎的な教師としての振る舞いについての記述が多く見られた。また、授業をスムーズに計画通り進めるための事前の指導案検討や学習内容の吟味、時間配分、導入の方法が見られた。また、生徒の学びが停滞した時や消極的な生徒への対応の仕方についての課題や、授業者が出してほしい意見を机間指導やグループワークのときに把握しておくという方法も考え出されていた。これらの「技能的省察」は、教師の基礎的な授業実践力としては必須と言えよう。しかし、その背景には、授業者として、自身が計画した通りに授業を進めたい、正解を生徒から引き出したいという強い思いがあると推察され、能率的で予定調和の授業が目指されていることが示された。それゆえ、授業という形式を成立させたいという教師の思いが強くなると、一斉指導になりやすいことが予想された。「技能的省察」の記述からは、生徒の学びとは何か、生徒の学びをどう創り出すのかといったことについての学びを深める必要があることが見えてきた。

次に「実践的省察」については、模擬授業を通して、授業づくりに懸ける教師の意欲が不可欠であることがあげられ、自分自身の姿勢を正す記述が見られた。また、教師自身がまず学習内容を深く理解する必要性があげられた。どちらも、模擬授業を経験して、教師としての自分自身のあり方を問う内容が確認された。さらに、生徒の実態や理解度をしっかり把握しながら学習内容を設定したり指導したりすることや、授業者が計画通りに進める一斉指導ではなく、生徒に考えさせたり、想定外の生徒の意見や反応にも対応したりして、生徒と教師の関係によって授業を実践していく必要性があげられた。ここでは、授業の計画通りに進めることの難しさを模擬授業の中で感じた学生もおり、教師にとっての進めやすい授業という考え方から一步進み、生徒の学びはどうすれば生起するのかということに考えを巡らせ、教師が学習内容の理解を深め、生徒と学習内容、生徒と教師の関係を取り結んで授業を実践していく必要があるということに気づき始めたと言えよう。

最後に「批判的省察」については、高校生ならここまで出来るという、一般的な発達段階に当てはめて考えていた自身の固定概念に疑問を持ち、目の前の生徒をよく見て学習を設定することが大切であるという考えに至った記述が見られた。自身が知らず知らずに身に付けている見方・考え方を問い直し、新たな捉え方を見つけたと言える。

以上より、実際の模擬授業を経験することによって、学生が事前に考えていたことと実際のずれを感じた時に、初めてどのように実践するかという方法論を超え、次の「教師としての学び」へ進んでいく省察が多数見られた。教師としての省察の質の深まりは、事前の立案以上に、実際の模擬授業の中で生徒がどのように学びを深めているのか、またどこで学びが生起し、または停滞したのか、生徒の学びを客観的に見極めることが重要になると考えられる。そのために、授業実践の動画記録を撮る等して、事後に自身の授業実践を客観的に振り返る機会を設けることも、今後の保健体育科教育の授業において必要であろう。

IV. まとめ

本研究は、模擬授業における学生の学びの記述を、マックス・ヴァン・マーネンの「省察の3次元モデル」に照らして質的分析を行い、【課題①】学生の省察の質を明らかにするとともに、【課題②】さらに深い省察に導くために保健体育科教育の授業においてどのような学びの必要性があるかについて検討することを目的としてきた。

【課題①】に関しては、多くが「技能的省察」に留まっており、教師としてどう能率的・効率的に授業を進行するかということに意識が集まり、教師の一齐指導に陥りやすいことが危惧された。一方「実践的省察」も見られ、ここでは生徒の学びの生起に着目されており、教師が学習内容の理解を深め、生徒と学習内容、生徒と教師の関係を取り結んで授業を実践していく必要があるという気づきが見られた。「批判的省察」の出現はごくわずかであったものの、無意識に身に付けていた自身（授業者）の発達観に疑問を持ち、実際の生徒の実態をよく把握する必要があるという新たな考えに至った省察が見られた。

以上のことより、学生の省察は、授業を成立させるための「授業デザイン」についての着目が多く見られるが、生徒の学びをどう育むかという視点に立った「学びのデザイン」への着目が弱いという結果となった。【課題②】に関して、今後の保健体育科教育の授業の学びとしては、指導案作成を含む事前の「学びのデザイン」と共に、模擬授業のビデオカンファレンス等事後の生徒の学びを見取る取り組みを行い、学びを創り出す力や見極める力の育成に注力する必要性が浮かび上がった。

本研究は、模擬授業における学生の学びの質を、テキストマイニングのことばネットワーク分析の共起関係から抽出したが、単語頻度の高い語や、強い直接的な共起関係がある語に絞って分析を行った点において、本研究の限界があると考えている。また本研究は、保健体育科教育受講生の集団として、省察の質の特徴を捉えたものであり、個々の受講生の受講前と受講後の学びの比較を行う等の個別的検証も必要であり、今後の研究課題としたい。

〈謝辞〉

本研究の実施にあたり、静岡県 T 大学「保健体育科教育Ⅱ」の履修学生に、アンケート回答のご協力をいただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

〈引用・参考文献〉

- 秋田喜代美 (1996) 「教師教育における『省察』概念の展開－反省的実践家を育てる教師教育をめぐる－」『教育と市場』森田尚人・藤田英典・佐藤学他編 世織書房 pp.451-467.
- Dewey, J. (1933) 『How we think: A restatement of the relation of reflective thinking to the educative process』 New York: D.C. Heath & Co.
- 藤田育郎・細越淳二 (2008) 「体育科模擬授業における学習成果の検討」『国土館大学体育研究所報 (27)』79-85.

- 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ (2011) 「教員養成課程の体育科模擬授業における教師役経験の意義についての検討-授業の『省察』に着目して-」『体育科教育学研究』27 (1) 19-30.
- 藤田育郎 (2015) 「大学における模擬授業の手法とその成果」『新版体育科教育学の現在』岡出美則他編 創文企画 pp.210-223.
- 日野克博・谷本雄一 (2009) 「大学の模擬授業並びに教育実習における省察の構造」『愛媛大学教育学部保健体育紀要』第6号 41-47.
- 上條眞紀夫 (2016) 「大学生の模擬授業による『実践的指導力』習得に関する研究—小学校体育授業づくりの意識形成を通して—」『淑徳大学研究紀要. 総合福祉学部・コミュニティ政策学部』第50号 65-80.
- 木原成一郎・村井潤・坂田行平・松田泰定 (2007) 「教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部 第56号 85-91.
- 木原成一郎・日野克博・米村耕平・徳永隆治・松田恵示・岩田昌太郎 (2008) 「教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究—テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部 第57号 69-76.
- 木原成一郎・村井潤・加登本仁・謝娟・松下篤・林楠・松田泰定 (2009) 「教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究 (その2) —テスト映像を視聴した学生が気づいた体育授業の要素—」『学校教育実践学研究』第15巻 29-37.
- 木原成一郎 (2010) 「模擬授業の意義と方法」『教師として育つ 体育授業の実践的指導力を育むには』梅野圭史他編 明和出版 pp.40-42.
- 岸一弘 (2013) 「小学校教員養成課程の体育科目における模擬授業の検討—受講生の『授業省察力』の変容に関して—」『共愛学園前橋国際大学論集』第13号 39-49.
- 文部科学省 (2017) 「教職課程コアカリキュラム」教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会 pp.1-4, pp.5-6.
- 二宮衆一・小谷祐二郎・中山和幸・中西大・久保文人・西原有香莉 (2018) 「省察を促す授業研究のあり方についての実践的研究」『和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究』第3巻 81-89.
- 新村出 編 (2018) 『広辞苑』第七版 岩波書店 p.907, p.2874.
- Shon, D.A. (1992) 「The theory of inquiry: Dewey's legacy to education」『Curriculum Inquiry』Vol.22 (2) 119 - 139.
- 田井健太郎・河合史菜・元嶋菜美香・久保田もか・高橋浩二・宮良俊行 (2018) 「教員養成課程における模擬授業の省察に関する研究」『長崎国際大学論叢』第18巻 31-46.
- Van Manen, M. (1977) 「Liking way of knowing with ways of being practical」『Curriculum Inquiry』Vol.6 (3) 205 - 228.
- Van Manen, M. (1991) 「Reflectivity and the pedagogical moment: The

normativity of pedagogical thinking and acting」『Journal of Curriculum Studies』 Vol.23 (6) 507 - 536.

〈巻末資料〉

【資料①】「模擬授業」に関わる共起関係

共起関係① 「模擬授業－自分」

共起関係 原文 No.	原文（自分）の一部抜粋	省察の質
2	準備の時点で 自分 の授業作りに対する熱量が必要.	実践的省察
2	力を抜いてしまうと授業で困るのは 自分 だということをやって思った.	実践的省察
5	自分 が指摘された点は勿論のこと、他者が指摘されていた点や、自分が他者の模擬授業を受けて感じたことは自分にも言えることなので、自分のこととして受け止め今後活かしていきたい.	—
5	自分 が他者の模擬授業を受けて感じたことは自分にも言えることなので、自分のこととして受け止め今後活かしていきたい.	—
5	自分が他者の模擬授業を受けて感じたことは 自分 にも言えることなので、自分のこととして受け止め今後活かしていきたい.	—
5	自分が指摘された点は勿論のこと、他者が指摘されていた点や、自分が他者の模擬授業を受けて感じたことは 自分 のこととして受け止め今後活かしていきたい.	—
7	周りの仲間たちの模擬授業を受けることで、様々な工夫や気づく点が多く、 自分 が授業をする上でのイメージや考えが浮かんだ.	—
7	自分 の話し方や字の書き方など、自分では気づかないような指摘を受けれたので良かった.	技能的省察
7	自分の話し方や字の書き方など、 自分 では気づかないような指摘を受けれたので良かったです.	技術的省察
9	授業者の良いところが沢山見つけました。また、それを吸収して 自分 のものにしていくためにはどうしたらよいかこれから考えていこうと思いました.	—
10	自分 のプレゼン力の低さを改めて感じた.	技能的省察
10	自分 の理解が足りていないということもあるとは思いますが、そこも含めて反省することはとてもたくさんありました.	—
11	生徒との交流であったり、 自分 が考えている内容に近づけていくのは難しいと思いました.	実践的省察
13	自分 が想定した答えや求めている意見が出なかった時に、どう生徒から引き出すのかといった部分と、教員としての振る舞い方を今後の課題にしていきたい.	技能的省察
14	自分 が欲しい意見が出てこない場面があり困ったが、机間指導をしているときに良い意見を見つけておくことが大切だということ学んだ.	技能的省察

共起関係② 「模擬授業－良い」

共起関係 原文 No.	原文（良い）の一部抜粋	省察の質
1	雰囲気が良いと生徒の意欲にもつながると思うので雰囲気作りは本当に大切にしていきたいです。	技能的省察
3	もっと授業ペースを考察した上で時間配分を考えた方がいいかないかと思いました。	技能的省察
4	中高生に授業をした時はそんなにうまくいかないと思うのでそういった場面を想定しての支援や補助の仕方をおいておいた方がいと感じた。	技能的省察
6	良い授業は良い導入から始まる。	技能的省察
6	良い授業は良い導入から始まる。	技能的省察
7	授業を行った後に貰ったコメントで授業中の自分の話し方や字の書き方など、自分では気づかないような指摘を受けたので良かったです。	技術的省察
9	授業者の良いところが沢山見つけました。	—
9	授業者の良いところが沢山見つけました。それを吸収して自分のものにしていくためにはどうしたらよいかこれから考えていこうと思いました。	—
9	先生の何気ない雑談からしっかり導入につなげていくのはさすがだと思いました。そのおかげで授業がスムーズに進んでいたのが本当に良かったです。	技能的省察
14	自分が欲しい意見が出てこない場面があり困ったが、机間指導をしているときに良い意見を見つけておくことが大切だということ学んだ。	技能的省察
15	生徒の発信に対して否定をせず、答えと少しずれた事を言ってもヒントを足して生徒に答えさせる、理解を深めるのにとっても良い指導方法だと思いました。	技能的省察

共起関係③ 「模擬授業－時間配分」

共起関係 原文 No.	原文（時間配分）の一部抜粋	省察の質
3	学んだことは時間配分の使い方をまだ理解できていないということです。	技能的省察
3	予定では15分としていたものが10分ほどで終わってしまったので、もっと授業ペースを考察した上で時間配分を考えた方がいいかとおもいました。	技能的省察
4	今回の模擬授業は15分という少し長めの時間で行ったが、時間配分が難しいと感じた。	技能的省察
6	時間配分についても今後の課題にしていきたい。	技能的省察
11	時間配分や板書など、授業を展開しながら考えることがたくさんあり、経験を積まないと大変だと思いました。	技能的省察
14	板書や時間配分が反省点でありやすかった。	技能的省察

共起関係④ 「模擬授業－授業者」

共起関係 原文 No.	原文（授業者）の一部抜粋	省察の質
5	実際に模擬授業を行ってみて、また他の授業者の模擬授業を受けてみて、授業を行うための事前準備の重要性について改めて学んだ。授業に一連の流れがあるのか、またその内容は対象にあっていいのかなど、構成を熟考する必要があると感じた。	実践的省察
9	授業者の良いところが沢山見つけました。	—
13	教員が一方的に喋る授業にならないための環境づくりや、生徒が主体的・対話的に学習に取り組んでくれるような導入で、どの授業者も工夫がみられたので参考にしたい。	実践的省察
17	今回の模擬授業の対象者が高校生であったのでこれくらいは出来て当然だと言う授業者（私自身）の価値観を押し付けてしまった部分があった。	批判的省察

共起関係⑤ 「模擬授業－内容」

共起関係 原文 No.	原文（内容）の一部抜粋	省察の質
4	実際は50分の授業なので内容が薄くならないように計画をしていかななくてはいけない。	実践的省察
5	授業に一連の流れがあるのか、またその内容は対象に合っているのかなど、構成を熟考する必要があると感じた。	実践的省察
11	自分が考えている内容に近づけていくことは難しいと思いました。	実践的省察
17	生徒の実態をよく考えてから授業スタイルを確立することを学んだ。授業内容でも生徒観を確り捉え、それらを基に考えた授業プランと何も考えず、ただ内容を吟味しただけの授業では深い学びの度合いが違ふと感じた。	実践的省察

共起関係⑥ 「模擬授業－部分」

共起関係 原文 No.	原文（部分）の一部抜粋	省察の質
12	大事な部分を板書することで分かりやすい授業になると思った。	技能的省察
13	自分が想定した答えや求めている意見が出なかった時に、どう生徒から引き出すのかといった部分と、教員としての振る舞い方を今後の課題にしていきたい。	技能的省察
17	今回の模擬授業の対象者が高校生であったのでこれくらいは出来て当然だと言う授業者（私自身）の価値観を押し付けてしまった部分があった。	批判的省察

共起関係⑦ 「模擬授業－多い」

共起関係 原文 No.	原文（多い）の一部抜粋	省察の質
3	受けた側として思ったことは保健体育科教育 I で受けたものよりもうまくまとまっているものが 多かった のもっと質を高めたいと思いました。	技能的省察
7	周りの仲間たちの模擬授業を受けることで、様々な工夫や気づく点が多 く 、自分が授業をする上でのイメージや考えが浮かんだ。	—
15	板書が多 く なることを予想して穴埋め用のプリントを作成する。	技能的省察

【資料②】「生徒」に関わる共起関係

共起関係① 「生徒－大切」

共起関係 原文 No.	原文（大切）の一部抜粋	省察の質
2	この模擬授業で1番 大切 だと感じた事は授業の雰囲気作りだなと思いました。どの授業でもそうですが授業の雰囲気が良いと生徒の意欲にもつながると思うので雰囲気作りは本当に大切に行きたいです。	技能的省察
7	声の抑揚も 大切 で、聞き取りやすさというのも教師の技量であると感じた。	技能的省察
7	発言してくれる生徒に限られるのはよくある話だと思うので、他の生徒に いかに機会を与えられるか というのも 大切 だと感じた。	技能的省察
9	大切 なことがわかるような板書の仕方を身につけていくこと、などが課題だと思う。	技能的省察
10	大切 なところを大きく声を出したりして抑揚をつけて話す。	技能的省察
11	模擬授業から、指導案の検討を細かく行うことが 大切 だと感じた。	技能的省察

共起関係② 「生徒－声」

共起関係 原文 No.	原文（声）の一部抜粋	省察の質
1	声 のトーン、抑揚を付けて重要なところなど聞きやすい工夫をする。	技能的省察
7	声 の抑揚も 大切 で、聞き取りやすさというのも教師の技量であると感じた。	技能的省察
8	細かなところであると 声 の大きさであったり、話すときの態度や目線といったところを直していく必要があると思いました。	技能的省察
10	授業中は、書く時と話す時とを区別する、発問の投げかけ方は答え方の例示を出す、 大切 なところを大きく 声 を出したりして抑揚をつけて話す、発言していない生徒の意欲をどう評価するのかなど気を抜かず行う重要性をととも感じた。	技能的省察

共起関係③ 「生徒－課題」

共起関係 原文 No.	原文（課題）の一部抜粋	省察の質
3	積極的な生徒がいないときにどのように振る舞うかが現場に立ったときの課題かなと思う。	技能的省察
4	プレゼンにならないようにすること、指示を明確にする事や生徒をよく見ながら展開していくことなどを意識して取り組む事ができたと感じた。生徒に考えさせる時間をもう少し設けさせたほうが良かったという課題が残った。	実践的省察
9	授業を時間内でしっかりとまとめられるように時間配分、時間の管理をできるようにすること。より生徒が見やすく、大切なことがわかるような板書の仕方を身につけていくこと、などが課題だと思う。	技能的省察
13	今後の課題としては授業で取り扱うネタの選別だと考える。全てが授業中に話せる訳では無いからだ。	技能的省察

共起関係④ 「生徒－抑揚」

共起関係 原文 No.	原文（抑揚）の一部抜粋	省察の質
1	板書の字の大きさ、バランスを取る。声のトーン、抑揚を付けて重要などころなど聞きやすい工夫をする。	技能的省察
7	声の抑揚も大切に、聞き取りやすさというのも教師の技量であると感じた。	技能的省察
10	授業中は、書く時と話す時とを区別する、発問の投げかけ方は答え方の例示を出す、大切なところを大きく声を出したりして抑揚をつけて話す、発言していない生徒の意欲をどう評価するのかなど気を抜かず行う重要性をととも感じた。	技能的省察

共起関係⑤ 「生徒－スムーズ」

共起関係 原文 No.	原文（スムーズ）の一部抜粋	省察の質
3	みんな口を揃えて言うのは、生スポ（*専攻名）じゃなかったらこんなにスムーズに授業が進むのか、ということ。まさにその通りで、積極的な生徒がいないときにどのように振る舞うかが現場に立ったときの課題かなと思う。	技能的省察
5	もう少しプレゼンのレベルをあげていけば、もっとスムーズに授業が展開できると感じた。	技能的省察
6	今回学んだことは多くある。例えばグループワークの時の輪の入り方である。輪に入ることで生徒の意見を先にみることができると受け答えを考えたり発表の時に「○○くんいい意見書いてたから発表してよ」などとスムーズに持っていく。	技能的省察

共起関係⑥ 「生徒－部分」

共起関係 原文 No.	原文（部分）の一部抜粋	省察の質
11	板書の重要性を感じた。大事な 部分 を板書することでわかりやすい授業になると思った。	技能的省察
12	自分が想定した答えや求めている意見が出なかった時に、どう生徒から引き出すのかといった 部分 と、教員としての振る舞い方を今後の課題にしていきたい。	技能的省察
15	今回の模擬授業の対象が高校生であったのでこれくらいは出来て当然だと言う授業者（私自身）の価値観を押し付けてしまった 部分 があった。	批判的省察

共起関係⑦ 「生徒－内容」

共起関係 原文 No.	原文（内容）の一部抜粋	省察の質
8	模擬授業を行い、私を感じたことは、生徒との交流であったり、自分が考えている 内容 に近づけていくことは難しいと思いました。	実践的省察
9	指導案の作成にあたってのポイント、実際に授業での導入の様々な仕方やグループワーク中の教師の働きかけ、授業の 内容 に上手くつながるような発問の仕方など多くのことを学ぶことができた。	技能的省察
15	生徒の実態をよく考えてから授業スタイルを確立することを学んだ。同じ授業内容でも生徒観を確り捉え、それらを基に考えた授業プランと何も考えず、ただ 内容 を吟味しただけの授業では深い学びの度合いが違うと感じた。	実践的省察

共起関係⑧ 「生徒－多い」

共起関係 原文 No.	原文（多い）の一部抜粋	省察の質
5	四年生の方や同じ学生にアドバイスを頂いて感じたのは、実際の生徒を想定して授業ができなかったなと考えた。一応予想する反応を考えていたが、それ通りにならないことの方が 多い ので、もっと臨機応変に対応しなくてはいけないと考えた。	技能的省察
6	今回学んだことは 多く ある。例えばグループワークの時の輪の入り方である。輪に入ることで生徒の意見を先にみることができるため受け答えを考えたり発表の時に「○○くんいい意見書いてたから発表してよ」などとスムーズに持っていける。	技能的省察
14	模擬授業を終えて、私は板書メインでの授業になってしまい机間指導があまり出来なかったことが一番の反省点であると考えます。板書が 多く なることを予測して穴埋め用のプリントを作成する。他のやり方もあり板書の時短に繋がり机間指導をする時間を設けることができるようになっていきました。	技能的省察

【資料③】「良い」に関わる共起関係

共起関係① 「良い－模擬授業」

共起関係 原文 No.	原文（模擬授業）の一部抜粋	省察の質
2	この 模擬授業 で1番大切だと感じた事は授業の雰囲気作りだなと思いました。どの授業でもそうですが授業の雰囲気が良いと生徒の意欲にもつながると思うので雰囲気作りは本当に大切にしていきたいです。	技能的省察
3	模擬授業 をして学んだことは時間配分の使い方をまだ理解できていないということです。	技能的省察
4	今回の 模擬授業 は15分という少し長めの時間で行なったが、時間配分が難しいと感じた。	技能的省察
6	私が今回 模擬授業 を行う際に特に力を入れた点は、導入です。やはり、良い授業は良い導入から始まると思っています。	技能的省察
7	周りの仲間たちの 模擬授業 を受けることで、様々な工夫や気づく点が多く、自分が授業をする上でのイメージや考えが浮かんだ。	—
9	全4回分の 模擬授業 が終わり、授業者の良いところが沢山見つけられました。	—
10	授業中のことを考えることも大事であるが、授業前の準備もかなり大事だということを 模擬授業 をしてみて感じた。	技能的省察
11	模擬授業 を終えて、私は板書メインでの授業になってしまい机間指導があまり出来なかったことが一番の反省点であると考えます。	技能的省察
11	模擬授業 の中で〇〇くん（原文は受講生の名字）の授業が一番参考にしたと感じました。生徒の発信に対して否定をせず、答えと少しずれた事を言ってもヒントを足して生徒に答えさせる、理解を深めるのにとっても良い指導方法だと思いました。	技能的省察

共起関係② 「良い－時間配分」

共起関係 原文 No.	原文（時間配分）の一部抜粋	省察の質
3	模擬授業をして学んだことは 時間配分 の使い方をまだ理解できていないということです。	技能的省察
3	予定では15分としていたものが10分ほどで終わってしまったので、もっと授業ペースを考察した上で 時間配分 を考えた方がいいかなと思いました。	技能的省察
4	今回の 模擬授業 は15分という少し長めの時間で行なったが、 時間配分 が難しいと感じた。	技能的省察
6	時間配分 についても今後の課題にしていきたいです。	技能的省察
10	板書や 時間配分 が反省点であがりやすかった。	技能的省察

共起関係③ 「良い－机間指導」

共起関係 原文 No.	原文（机間指導）の一部抜粋	省察の質
1	机間指導で良い意見を見つけておき、発表の際に意見を出しやすいようにする。	技能的省察
10	自分が欲しい意見が出てこない場面があり困ったが、机間指導をしているときに良い意見を見つけておくことが大切だということ学んだ。	技能的省察
11	模擬授業を終えて、私は板書メインでの授業になってしまい机間指導があまり出来なかったことが一番の反省点であると考えます。板書が多くなることを予測して穴埋め用のプリントを作成する。他のやり方もあり板書の時短に繋がり机間指導をする時間を設けることができるようになってきました。	技能的省察

共起関係④ 「良い－人」

共起関係 原文 No.	原文（人）の一部抜粋	省察の質
5	他の人の発表を客観的に見る事で多くの事を吸収でき、もっとより良い授業を作りたいと思う気持ちが強くなった。	—
8	準備をする上で自分以外の人の授業を観察することによって授業の幅が広がり、自分にあったより良い授業を展開できると感じた。	—
10	様々な人の授業を見れたことで、授業デザインの引き出しが増え、勉強になった。	—

共起関係⑤ 「良い－多い」

共起関係 原文 No.	原文（多い）の一部抜粋	省察の質
3	受けた側として思ったことは保健体育科教育 I で受けたものよりもうまくまとまっているものが多かったのもっと質を高めていきたいと思いました。	技能的省察
7	周りの仲間たちの模擬授業を受けることで、様々な工夫や気づく点が多く、自分が授業をする上でのイメージや考えが浮かんだ。	—
11	模擬授業を終えて、私は板書メインでの授業になってしまい机間指導があまり出来なかったことが一番の反省点であると考えます。板書が多くなることを予測して穴埋め用のプリントを作成する。	技能的省察

【資料④】「自分」に関わる共起関係

共起関係① 「自分－模擬授業」

共起関係 原文 No.	原文（模擬授業）の一部抜粋	省察の質
1	模擬授業ではいつもの授業と異なるため何倍も勉強になった。まず準備の時点で自分の授業作りに対する熱量が必要であり、そこで力を抜いてしまうと授業で困るのは自分だということをやったし、生徒役をしていても思った。パワポも使用したり授業の幅をもたすのは全て自分次第だなと感じた。	実践的省察
2	実際に模擬授業を行ってみて、また他の授業者の模擬授業を受けてみて、授業を行うための事前準備の重要性について改めて学んだ。	技能的省察
2	実際に模擬授業を行ってみて、また他の授業者の模擬授業を受けてみて、授業を行うための事前準備の重要性について改めて学んだ。	技能的省察
2	自分が指摘された点は勿論のこと、他者が指摘されていた点や、自分が他者の模擬授業を受けて感じたことは自分にも言えることなので、自分のこととして受け止め今後活かしていきたい。	—
3	周りの仲間たちの模擬授業を受けることで、様々な工夫や気づく点が多く、自分が授業をする上でのイメージや考えが浮かんだ。	—
4	全4回分の模擬授業が終わり、授業者の良いところが沢山見つけられました。	—
5	この模擬授業を通して自分のプレゼン力の低さを改めて感じました。	技能的省察
6	模擬授業を行い、私が感じたことは、生徒との交流であったり、自分が考えている内容に近づけていくことは難しいと思いました。	実践的省察
6	模擬授業を行い、私が感じたことは、生徒との交流であったり、自分が考えている内容に近づけていくことは難しいと思いました。時間配分や板書など、授業を展開しながらも考えることがたくさんあり、経験を積まないと大変と思いました。また、細かいところであると声の大きさであったり、話すときの態度や目線といったところを直していく必要があると思いました。今回、模擬授業を行うことで難しさ大変さというのが改めて実感することができました。	技能的省察
7	模擬授業では、教員が一方的に喋る授業にならないための環境づくりや、生徒が主体的・対話的に学習に取り組んでくれるような導入で、どの授業者も工夫がみられたので参考にしたいと思った。	実践的省察
8	板書や時間配分が反省点であがりやすかった。授業中のことを考えることも大事であるが、授業前の準備もかなり大事だということをも模擬授業をしてみて感じた。	技能的省察
10	今回の模擬授業では、生徒の実態をよく考えてから授業スタイルを確立することを学んだ。同じ授業内容でも生徒観を確り捉え、それらを基に考えた授業プランと何も考えず、ただ内容を吟味しただけの授業では深い学びの度合いが違うと感じた。	実践的省察

10	今回の模擬授業では、生徒の実態をよく考えてから授業スタイルを確立することを学んだ。同じ授業内容でも生徒観を確り捉え、それらを基に考えた授業プランと何も考えず、ただ内容を吟味しただけの授業では深い学びの度合いが違うと感じた。それらを今回の模擬授業では意識して、発達の段階に応じた指導ができたと思う。	実践的省察
10	今回の模擬授業の対象が高校生であったのでこれくらいは出来て当然だと言う授業者（私自身）の価値観を押し付けてしまった部分があった。いくら発達の段階が高い高校生でも分からないものは分からないのである。そこは自分の設定した指導案にはない、ある意味予想外の反応であるが、それにも柔軟に対応して行けるようなスキルを涵養して行かなければ現場では通用しないと痛感した。	批判的省察
10	そこは自分の設定した指導案にはない、ある意味予想外の反応であるが、それにも柔軟に対応して行けるようなスキルを涵養して行かなければ現場では通用しないと痛感した。よって模擬授業の経験を重ねて、臨機応変な対応力を身につけたいと思う。	実践的省察

共起関係② 「自分－授業中」

共起関係 原文 No.	原文（授業中）の一部抜粋	省察の質
3	授業を行った後に貰ったコメントで授業中の自分の話し方や字の書き方など、自分では気づかないような指摘を受けられたので良かったです。	技能的省察
8	板書や時間配分が反省点であがりやすかった。授業中のことを考えることも大事であるが、授業前の準備もかなり大事だということをも模擬授業をしてみて感じた。	技能的省察
9	今後の課題としては授業で取り扱うネタの選別だと考える。全てが授業中に話せる訳では無いからだ。	技能的省察

共起関係③ 「自分－内容」

共起関係 原文 No.	原文（内容）の一部抜粋	省察の質
2	授業を行うための事前準備の重要性について改めて学んだ。授業に一連の流れがあるのか、またその内容は対象に合っているかなど、構成を熟考する必要があると感じた。	実践的省察
6	模擬授業を行い、私が感じたことは、生徒との交流であったり、自分が考えている内容に近づけていくことは難しいと思いました。	実践的省察
10	今回の模擬授業では、生徒の実態をよく考えてから授業スタイルを確立することを学んだ。同じ授業内容でも生徒観を確り捉え、それらを基に考えた授業プランと何も考えず、ただ内容を吟味しただけの授業では深い学びの度合いが違うと感じた。	実践的省察